

科目名	古典B	単位数	3	学年	2	コース	文系 国際教養	必選別	必修
教科書	精選古典B 古文編・漢文編（東京書籍）			副教材	ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店） 完全マスター古典文法（第一学習社） 古語辞典・漢和辞典				

1. 学習の到達目標

- ・1年次（国語総合）の学習内容を復習し、確認する。
- ・古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を身につける。

2. 学習内容

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	ガイダンス 随筆1	枕草子（「中納言参り給ひて」「雪のいと高う降りたるを」）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の予定、授業の受け方を理解する。 ・登場人物の行動と心情を整理する。 ・文法事項を踏まえて現代語訳する。 ・敬語の種類と敬意の対象を考える。 	発表／記述の確認／定期考査
5	中間考査 小話	「完璧而帰」	<ul style="list-style-type: none"> ・訓読法（返読文字・置き字）について確認する。 ・文中の句法を確認する。 ・適切に訓読し、現代語訳をする。 ・漢文に頻出する語彙の知識をもとに、登場人物の考えや本文の展開を理解する。 	発表／記述の確認／定期考査
6	随筆2	徒然草（「悲田院の堯蓮上人は」）	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な文法理解をもとに、適切に現代語訳する。 ・作者の登場人物に対する評価が、どのように変化したかを読み取る。 ・内容と心情を本文に即して対比的に把握する。 	発表／記述の確認／定期考査
7	学期末考査			
9	物語1	大和物語（「姨捨」）	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の修辞や指示語などに注意して、適切に現代語訳する。 ・登場人物の境遇、行動について、その理由を考えながらまとめる。 	発表／記述の確認／定期考査
10	詩1	近体詩一八首	<ul style="list-style-type: none"> ・各詩の情景や作者の心情を思い描きながら音読する。 ・各詩の形式、句法を確認し、書き下し文を作る。 	発表／記述の確認／定期考査
11	中間考査 物語2	大鏡（「道長、伊周の競射」「肝試し」）	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な文法理解をもとに、適切に現代語訳する。 ・本文内容と歴史的事実を確認する。 ・歴史物語の特徴への理解を深める。 ・登場人物の行動や発言内容を的確に理解し、人物像をまとめる。 	発表／記述の確認／定期考査
12	史記1	史記「項羽」	<ul style="list-style-type: none"> ・句法や基本的な語彙（読み・意味）を確認する。 ・正確に訓読し、現代語訳する ・人物の主張や場面の状況を理解する。 ・適切に現代語訳をする。 	発表／記述の確認／定期考査
	学期末考査			

1	物語 2	源氏物語 （「光源氏の誕生」）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な文法理解をもとに、適切に現代語訳する。 ・ 登場人物について整理し、それぞれの場面における心情を読み取る。 	発表／記述の確認／定期考査
2	思想 1	儒家と道家	<ul style="list-style-type: none"> ・ 句法・語彙に注意して現代語訳する ・ 思想家それぞれの主張を理解する ・ 各思想家や時代背景について調べる。 	発表／記述の確認／定期考査
3	学年末考査			

3. 評価の観点

関心・意欲・態度	・ 古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。
読む能力	・ 古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。
知識・理解	・ 伝統的な言語文化及び伝統的な言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。

4. 評価の方法

<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動の観察（学習活動における発言内容や取り組みの様子） ・ 記述の確認、分析（ノート、ワークシート） ・ 音読、文法等の確認テスト ・ 定期考査（年間5回）

5. 担当者からのメッセージ

（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<p>・ 古典作品を読み味わい、内容をよく理解するために「音読」は欠かせません。授業中に音読を練習したり、発表したりすることがありますので、積極的に取り組んでください。</p> <p>・ 作品の中の登場人物や作者の主張・考え・心情、作品で描かれている情景などを読み取ることは、現代文の学習と変わりません。自分の考えを発表したり、文章にまとめたりすることも同様に行います。苦手意識を持たずに取り組みましょう。</p> <p>ただし、古典作品には、現代では使われなくなったり意味や使い方が異なったりする言葉も多くあります。内容を正確に理解するために、文法や語彙の知識の習得にも努力しましょう。</p> <p>・ 「古語辞典」や「便覧」、文法についての副教材などを使用して、ワークシート作業を行ったり、ノート等に調べたり、まとめたりします。授業での課題を家庭での予習・復習にも活用しましょう。</p>
